

第 17 部 ソフトウェア・プロセスの改善

第 6 章で「高品質のソフトウェアを作る方法」を考えたとき、「ソフトウェアの作り方が良ければ、その結果作られるソフトウェアの品質も良い」と述べた。結論を先に述べれば、これがソフトウェア・プロセス改善の「心」である。

既に第 12 章で述べたように、ソフトウェア・プロセスとは「ソフトウェアの作り方」を意味する。ソフトウェア・プロセスの改善とは、このソフトウェアの作り方を良くしようとするものであるが、その目的はこの改善されたソフトウェア・プロセスによって、品質の高いソフトウェアを作ることにある。

この第 17 部は、次の 3 つの章で構成される

その最初の第 39 章では、ISO 9000 シリーズについて述べる。ISO 9000 シリーズはソフトウェア工学とは直接の関わりを持たないけれど、これは品質の高い製品を作るためのマネジメント・システムの構築を目的としており、ソフトウェア・プロセスの改善についての議論でも、ISO 9000 シリーズは避けて通ることはできない。

第 40 章では、「開発のための CMMI (CMMI-DEV)」について議論する。CMMI-DEV はこれまでのソフトウェア工学の成果を集大成したものであり、ソフトウェア・プロセスを改善して高品質のソフトウェアを作るという上で、ソフトウェア工学の立場からこれこそまさに本命として位置づけされるものである。

第 41 章では、この CMMI-DEV に極めて類似した ISO/IEC 15504 について議論する。

